

# 常照

第783号

## 「善人と悪人」

親鸞聖人のお弟子様にあたる唯円さんが書かれた、「歎異抄」の第三章は、いわゆる「悪人正機」と呼ばれている文章ですが、まずこの後全文をご紹介させて頂きます。「(現代語訳) 善人が往生出来るのであれば悪人が往生出来ないわけがありません。しかしなが

ら世間の人々はこのように言います。悪人が往生出来るのであれば、善人が往生出来るのは当たり前、善人が往生出来るのは当たり前、善人の事だと。この言い方はちよつと考えれば当たっているように思いますが、弥陀の本願のはたらきから考えれば矛盾するものです。それは、自力で仏になるうとしている人は、本願のはたらきに頼ろうとする心がありませぬので、そこには弥陀の本願を必要としていません。しかしながら、自力の心を捨てて本願のはたらきを頼む心が生まれれば、本当の極楽浄土に生まれる事が出来るのです。煩惱ぼんのうまみれの私たちが、

どんな修行によつても生死しやうじの苦しみから逃れられない事を憐れんで、阿弥陀様が願いをたてて下されたのが本当の意志であれば、仏様の願いは悪人を成仏させてやろうと云う事であり、本願のはたらきを頼む悪人の心が一番の往生の種になるのです。それ故、善人だつて往生できるのであれば、悪人が往生できるのはあたりまえの事だ。」と、書かれています。

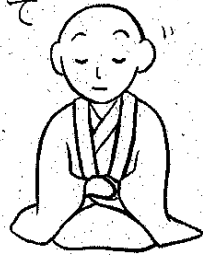
この第三章では、仏様になろうと修行している僧侶が善人であり、修行をしていない一般の人々が悪人のように書かれています。しかし、一般的にはどうでしょ

うか。法律的に善人悪人を考えれば悪事を働かない人間が善人であり、悪事を働く人間が悪人のように思います。また、経済社会から考えれば、金持ちが善人であり、貧乏人が悪人と言うことになりません。親子関係を考えれば、親に対して口答えもせず、親の指示通りに親孝行する子供が善人であり、親の云う事を聞かないで反抗する子供が悪人と云う事になります。

そこで、同じ歎異抄の第十三章を読んでみますと、親鸞聖人と唯円さんの問答に、善人悪人の話が出てきます。『(現代語訳) 親鸞聖人が「唯円房は私の言う事を信

「ずるか。」と尋ねられましたので、「もちろんです。」とお答えしたところ、「では、私の言う事にそむかないか。」と重ねて問われましたので、慎んで承諾いたしましたと答えました。すると「それでは、たとえば千人を殺してくれないか、そうすれば、あなたの往生はまちがいないはずだ。」と聖人が言われましたので、「お言葉ではございますが、わたしの器量では、とても一人だって殺せそうにありません。」と申し上げたところ、「では、なぜ親鸞の言うことにはそむかないと言ったのだね。」と詰問されました。「これ

でわかるだろう。すべてのことが自分の思う通りに行くものならば、往生のために千人殺せと命じられれば、すぐさま殺すだろう。しかし、たった一人をさえ殺すだけの心がそなわっていないから、殺害できないのだ。自分の心が善で殺さぬのではない。また、殺害しないでおこうと思っても、百人千人を殺してしまうことだってあるのだよ。」と、聖人は言われましたと書かれています。



すなわち聖人は、善人であつても悪人になる事もあるし、悪人が

善人になる事もあり、人間を善人だ悪人だと区別差別するのは、人間の計らいであり、阿弥陀様は、そのような区別差別をしないで、全ての人々をお救いするのが願いだと言われています。法律的な善人悪人も、経済的な善人悪人も、親子関係における善人悪人も、全てが人間の計らいであり、そのよ  
うな事は、仏様の願いにはないと断言されているのです。  
仏様の願いは「悪人正機」ではなく、「万人正機」なのです。

四月の常例布教(法話)のご案内

○前期 四月七日(日)～十一日(木)

北豊教区 上毛組 円光寺

講師 嶋津教信 師

○後期 四月十三日(土)～十六日(火)

北海道教区 留萌組 信樂寺

講師 吉川昭恵 師

○場所 小樽別院内

○時間 午後二時(法要終了後)～午後三時半

○浄土真宗のみ教えについて布教使にご法話を  
して頂きます。

どうぞお誘い合わせいただき、ご聴聞に来院  
くださいますよう、お待ちしております。

発行所

☎047-0017

小樽市若松一丁目四番十七号  
本願寺小樽別院

電話 (011-434) 二二一〇七四番  
FAX (011-434) 二二九一四〇番  
テレホン法話 (011-434) 二七六一六六番